

**紅葉山型細石刃核を組成する石器群の動作連鎖**  
**－北海道留辺薬町（現北見市）紅葉山遺跡石器群の再検討を通して－**  
A chaîne opératoire of Momijiyama type Microblade Assemblages  
from Momijiyama Site

学籍番号 46821  
氏名 尾田 識好 (Oda, Noriyoshi)  
指導教員 佐藤 宏之 助教授

**1, 研究の目的、背景、問題点**

北海道の後期旧石器時代の大部分を占める細石刃石器群の研究は、1970年代の各種の細石刃製作方式とその結果残される各種の細石刃核型式の設定、および細石刃核相互の共伴関係に基づいた編年主体の研究から、1990年代以降の石器群の行動論的理解へと研究視点が変わってきた。1980年代後半以降の遺跡の調査・報告・分析によって、火山灰との関係で捉えられる例も含めた層位的出土例によって石器群のある程度の年代的な位置づけの目安が得られたこと、緻密な分析により、各種細石刃核型式の共伴関係がより詳しく捉えられ、そうした現象を解釈する方法論が求められるようになったことが背景にある。そうした中であって、「置戸型」あるいは「紅葉山型」と呼称される円錐形細石刃核を伴う石器群については、その編年の位置づけと、行動論的分析の基礎となる技術的特徴が十分に明らかにされていない。

留辺薬町（現北見市）紅葉山遺跡は、初めて円錐形細石刃核がまとまって出土した遺跡であり、当該石器群の標識遺跡になっている。しかし、その石器群の内容は報告当初から指摘されていたように多様で、研究者によって石器群全体

あるいは個々の石器の捉え方が異なることも多く、当該石器群研究（特に編年研究）の混乱の一因となってきた。そこで本論では、第1章で紅葉山遺跡の概要と今日の研究課題を整理し、第2章において本遺跡資料の再整理と基礎的な分析の結果を記述して石器群の全体像を提示した。前章までの内容を踏まえた上で、第III章では遺跡内の石器の平面分布や接合状況等の検証、さらに紅葉山遺跡の石器と周辺遺跡のそれとを技術形態的に比較しながら、紅葉山遺跡石器群の一括性について検討した。そして、第IV章では前章で設定された紅葉山遺跡における「紅葉山型細石刃核を組成する石器群」を対象に、その技術的特徴の把握を試みた。

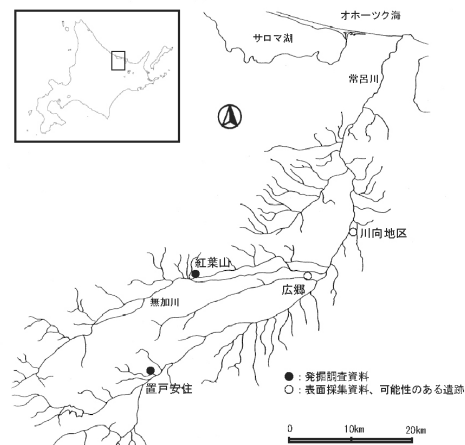


図1 紅葉山遺跡の位置

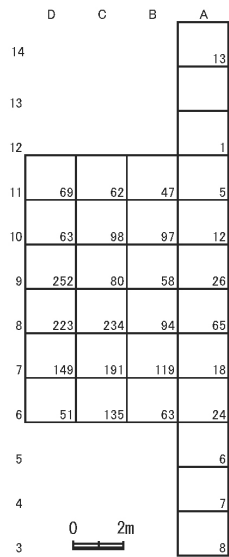


図2 発掘調査区とグリッド別出土点数

## 2, 紅葉山遺跡石器群の再整理・再検討

表1は、今日的な観点から再編成した紅葉山遺跡の器種組成である。ここで個々の石器の特徴を詳述することはできないが、特徴的な石器としては、紅葉山型・峠下型・広郷型・忍路子型といった各種細石刃核、石刃核、搔器、彫器、舟底形石器、両面加工尖頭器が挙げられる。

## 3, 紅葉山遺跡石器群の一括性の検討

前述した石器の一括性を議論するための一判断材料として、発掘調査区における石器・石質別の平面分布と接合状況、器種別の平面分布を検討した。遺物取り上げがグリッド一括であるため厳密な意味での検証は不可能であったが、大略的には、C9区、B10区、C10区付近を境として、その北側区域と南側区域とで石器分布が分かっていた可能性が指摘できた。それぞれの分布域の代表的な石器は、北側区域では紅葉山型細石刃核、南側区域では広郷型細石刃核であった。

次に、紅葉山遺跡出土資料を周辺遺跡の石器群と比較しながら、石器の技術形

態学的視点から石器群の一括性について検討した。以下に要点をまとめる。①各種細石刃核が確実に共伴関係にある事例はなく、各種細石刃核はそれぞれ別々の石器群であると判断した。②搔器が技術形態的に少なくとも2群に分けられ、石器群を異にしていることが推測された。③両面加工尖頭器と舟底形石器は、各種細石刃石器群とは別の石器群を構成していた可能性が高い。④石刃核は、本遺跡からは出土していない細石刃核（蘭越型）を伴う石器群によくみられるものである。

以上の検討から、現時点において筆者は、紅葉山遺跡石器群は少なくとも6群に分けられ得ることを指摘した（表2、図2）。各群の北海道の細石刃石器群編年における位置づけは、E群とF群は前半期細石刃石器群、B群・C群・D群は後半期細石刃石器群と推測される。紅葉山遺跡出土資料の主体であるA群（紅葉山型細石刃核を組成する石器群）は現在のところ確かな根拠をもって編年的に位置づけることができなかった。

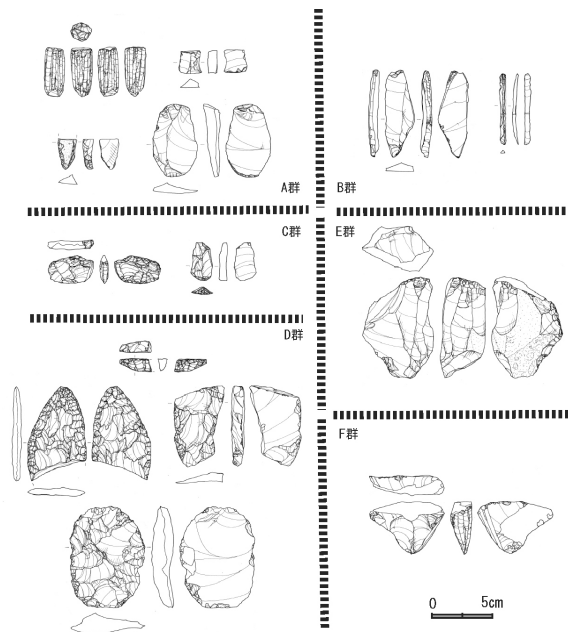


図2 紅葉山遺跡の各石器群

#### 4、紅葉山型細石刃核を組成する石器群の動作連鎖

前章までの検討で設定された、紅葉山遺跡における「紅葉山型細石刃核を組成する石器群」の石器製作の技術的特徴の把握を試みた。

具体的な分析内容は、①石核と、特徴的な剥片類・石刃類の観察による大略的なコア・リダクション過程の把握、②その過程をよる詳細に知るための石質別の検討、③そうしたコア・リダクション過程で生産される剥片の利用のされ方である。

こうした分析から推測された紅葉山型細石刃核を組成する石器群の石器製作・使用の動作連鎖は図3のようにまとめることができる。

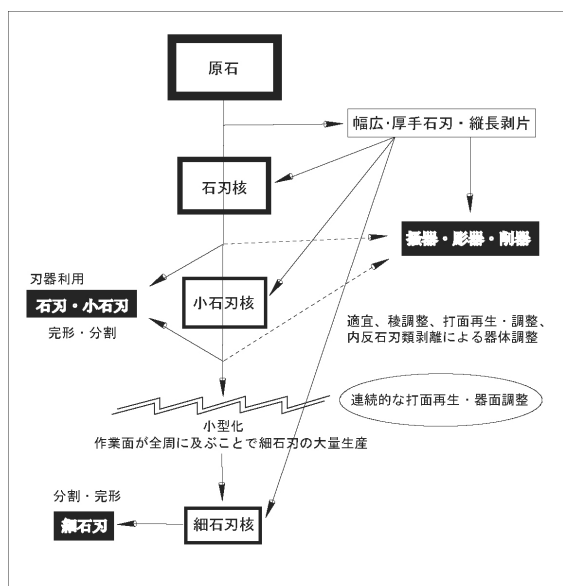


図3 紅葉山型細石刃核を組成する石器群の石器製作・使用の動作連鎖

原石もしくはそれに近い形状の素材から剥片剥離が行われるが、その過程では打面再生・調整、器面調整が施され、石核は相対的に小型化していくというコア・リダクション過程が推測された。さらに、その過程には上記各種調整が連続

的に行われることで石核の形状が大きく変わる段階があったようで、これを境に細石刃剥離作業面が石核の全周に及び、一個体から得られる細石刃の数量が格段に増加していることが窺えた。

また、石核から生産される剥片の利用のされ方であるが、コア・リダクションの初期段階に剥離された大型の縦長剥片が主に搔器・彫器・削器の素材として利用され、コア・リダクションの進行した石核から生産されるやや幅狭の石刃類は一部分割されながら、狩猟獣の解体等のための刃器として利用されていた可能性があることを指摘した。

#### 5、紅葉山型細石刃核を組成する石器群の発現の背景

当該石器群の編年の位置づけを明らかにし得なかった段階で、こうした課題を検討するのは時期尚早ではあったが、先の検討から導かれた当該石器群の技術的特徴から、予察的に考察し、本論のまとめとした。

当該石器群のコア・リダクションには各種の石核調整が組み込まれており、それゆえサイズ・形状等、広い範囲の形質の原石材が利用可能であったと考えられる。しかし、搔器・彫器といった石器の素材供給は、原石もしくはそれに近い形状の素材を用いた初期段階の剥片剥離作業によって生産される大型の石刃・縦長剥片に依拠しており、結果的に大型の原石材を素材にする必要があったと推測される。また、本石器群のコア・リダクションは、細石刃を中心とした石刃・小石刃の大量生産を可能にする一方で、石核や石刃類はその汎用性に乏しく、他の用途に転換できる可能性は殆どないと考えられる。このように、大型

での石材を必要とし、石刃類（特に細石刃）の生産・使用に特殊化した当該石器群は、信頼性を重視した石器製作システムであったと理解され、相対的に予測可能性の高い状態での生業システムにおいて発現された技術だったのではないかと予察した。

その上で共時的石器群との関係性を分析した上で、再度検討していかなければならない。これを含め、より広い視野での他の石器群の具体的な検討やそれに基づいた比較検討は、今後の筆者自身の課題とした。

## 6, おわりに

予察的に論じた部分については、当該石器群の編年的位置づけを明らかにし、

表1 紅葉山遺跡石器群の器種組成

|         | 細石刃類  | 小石刃類 | 石刃類  | 搔器   | 彫器   | 彫器削片 | 削器   | 錐形石器 | 楔形石器 | 挟入石器 | 舟底形石器 | 両面加工尖頭器 | 石鏃   | 石器破片 | 細石刃核 | 広郷型細石刃核 | 忍路子型細石刃核 | 峠下型細石刃核 | 細石刃核削片(峠下型) | 小石刃核 | 石刃核  | 石核   | 剥片類   | 細片    | 礫・礫片 | 合計     |
|---------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|---------|------|------|------|---------|----------|---------|-------------|------|------|------|-------|-------|------|--------|
| RB      | 352   | 170  | 79   | 12   | 13   | 31   | 6    |      | 2    | 1    | 2     | 1       | 2    |      | 7    | 1       |          |         |             | 2    | 1    | 3    | 487   | 1095  | 3    | 2270   |
| RBX     | 9     | 9    | 9    | 3    | 1    | 4    | 1    | 1    |      |      |       |         |      | 1    |      | 1       |          |         |             |      | 1    | 1    | 62    | 32    |      | 135    |
| RBS、XII | 1     | 2    | 4    | 1    |      |      |      |      |      |      |       |         |      |      |      |         |          |         |             |      | 1    |      | 2     |       |      | 11     |
| 小計      | 362   | 181  | 92   | 16   | 14   | 35   | 7    | 1    | 2    | 1    | 2     | 1       | 2    | 1    | 7    | 2       |          |         |             | 2    | 3    | 4    | 551   | 1127  | 3    | 2416   |
| 比率      | 15.0% | 7.5% | 3.8% | 0.7% | 0.6% | 1.4% | 0.3% | 0.0% | 0.1% | 0.0% | 0.1%  | 0.0%    | 0.1% | 0.0% | 0.3% | 0.1%    |          |         |             | 0.1% | 0.1% | 0.2% | 22.8% | 46.6% | 0.1% | 100.0% |
| RBS     | 1     | 1    | 1    | 2    | 1    |      | 1    |      |      |      |       |         |      |      | 3    | 2       | 1        |         |             |      |      | 1    | 7     | 4     |      | 25     |
| X       | 2     | 2    | 2    |      |      | 4    |      |      |      |      |       | 2       |      | 1    |      |         |          |         |             |      |      | 1    | 66    | 92    | 4    | 184    |
| XII     | 4     | 13   | 8    | 1    | 1    |      | 7    |      |      |      |       |         |      | 1    |      |         |          | 1       |             |      | 1    | 1    | 23    | 8     | 1    | 70     |
| 合計      | 369   | 197  | 103  | 19   | 16   | 39   | 15   | 1    | 2    | 1    | 2     | 3       | 2    | 3    | 10   | 4       | 1        | 1       | 8           | 2    | 4    | 7    | 647   | 1231  | 8    | 2695   |
| 比率      | 13.7% | 7.3% | 3.8% | 0.7% | 0.6% | 1.4% | 0.6% | 0.0% | 0.1% | 0.0% | 0.1%  | 0.1%    | 0.1% | 0.1% | 0.4% | 0.1%    | 0.0%     | 0.0%    | 0.3%        | 0.1% | 0.1% | 0.3% | 24.0% | 45.7% | 0.3% | 100.0% |

\*「RBS、XII」はRB、RBXの資料と接合している資料、その内訳はRBS2点、XII9点である。

表2 紅葉山遺跡における各石器群の内容

|    | 石質               | 特徴的な製品類                          |
|----|------------------|----------------------------------|
| A群 | 以下の石質以外          | 紅葉山型細石刃核、大型の搔器、彫器、錐形石器、挟入石器、楔形石器 |
| B群 | OB-11            | 広郷型細石刃核、搔器                       |
| C群 | OB-2、OB-15の一部(?) | 忍路子型細石刃核、小型の搔器                   |
| D群 | OB-1・20          | 両面加工尖頭器、片面加工石器素材の彫器、同削器、舟底形石器(?) |
| E群 | 頁岩               | 蘭越型細石刃核を組成する石器群に伴う石刃核            |
| F群 | OB-単独他           | 峠下型細石刃核、峠下型細石刃核削片                |

